

中国人日本語学習者の外来語に関する意識と外来語教育の必要性  
 Awareness of Japanese loanwords among Chinese students of Japanese  
 and the necessity of loanwords education

邵俊秋<sup>1</sup>、才田春夫<sup>2</sup>

Shao JunQiu, Saida Haruo

情報化社会が進む中で、日本人の生活に用いられる新しい外来語が急増している。外来語が苦手な中国人学習者は、この膨大な数の外来語をどのように吸収するのかを、また、日本語教育者側にとっては外来語教育をどのように充実し、改革するかが大きな課題となっている。中国語を母語とする学習者は、漢字表記による日本語語彙は習得が速いが、カタカナ表記による外来語に関しては、多くの学習者が戸惑いを感じ、外来語の勉強がなかなか進まないと訴える。本研究は南通大学在学学生を中心にアンケート調査を行い、中国人学習者の外来語に対する意識を探ることにより、彼らを感じている困難点や悩みを明らかにした上で、そこから見えてくる外来語教育の対応策を検討した。また、低学年の日本語カリキュラムに外来語の早期教育を導入し、情報化社会ならではの手段で収集した日本社会の様々な情報を副教材として学習者に勉強させるなど教材の形の多様化を提案した。

キーワード：中国人日本語学習者、外来語意識、外来語教育

### 1. はじめに

日本は外国との間に人・物・情報の交流増大や、各分野に於けるグローバル化の進展、また、スマートフォンの普及率向上によるソーシャルメディアやスマホアプリの日常生活への浸透に伴い、従来の国土・民族の概念を越えた情報のやり取りが世界的規模で行われ、日本に居ながらにして世界各地の情報を収集することが出来る様になった。それにつれて日本語に由来しない数多くの外来語の使用が著しく増大し、日本人にとっても覚え切れないほどの外来語が次から次へと現れてきた。外国人は日本の大都市の都心部に来ると、色とりどりの看板に書かれているカタカナ表記の外来語の勢いに圧倒され、まるで外来語の海洋に囲まれているような感じがするだろう。現代日本語の日進月歩の進化に伴い、日本語教育の現場に於いては、その教育素材としての外来語は避けて通れない事態に至っている。日本語学習者はこの覚え切れない、しかも日一日と増える外来語に対してどのように対応すべきかという厳しい現実と直面することになる。

これまでの日本語教育に於いては、外来語教育は重要視されていない。カリキュラムの設定には外来語教育を集中的に行う課程はほぼゼロである。10年前、20年前の日本語教科書と比べると、新しく出版された日本語教材の新出単語に於ける外来語の比率は確実に増えたが、現代日本社会に於ける外来語の大量使用という時代性にはまだまだ対応できていない状況である。近年の外来語の急増を考えれば、外来語教育の充実は既に緊急の課題となっている。そこで本研究では中国人日本語学習者に対してアンケート調査を行い、彼らの外来語に対する意識、彼らを感じている困難点や抱いている悩みを明らかにしたい。また、そこから見えてくる外来語教育の考え方や学習者の勉強法を検討し、外来語教育の早期導入の重要性喚起と対応策をまとめる。

<sup>1</sup>南通大学外国語学部（中国）

<sup>2</sup>富山国際大学現代社会学部

## 2. 外来語の範疇と役割

### 2.1 外来語の範疇

現代日本語の語彙を大きく分けると、もともと日本人が使用していた和語（または、大和言葉）と外国語から移入した借用語の2種類があるが、借用語はさらに、中国語から移入した漢語と、それ以外の外国語（現代中国語を含む）から移入した外来語に分かれる。そして、和語、漢語、外来語のうち2種類以上の語を混用した混種語もある<sup>1)</sup>。既存の研究は中国の隋唐時代に始まった中日文化交流によって中国から流入してきた漢字を借用語として認めながら、それを「漢語」に分類し、習慣として「外来語」に含めないということになる。また、現代日本語に於ける「外来語」の中身を分析すると、ヨーロッパ諸国（ポルトガル、オランダ、ドイツ、フランス、イタリアなど）の言語から借用した言葉だけではなく、現代中国語から流入した言葉（ワンタン、メンツ、ラーユ、チャーハン）も「外来語」の範疇に入れられる。

本稿で考察の対象としたのは、外来語の80%以上を占めている、カタカナで表記される英語から由来した外来語である。

### 2.2 外来語の役割

明治維新以来、「和魂洋才」はもう日本立国の文化方針の一つになった。外国の先進的な技術文化を輸入する大役を担う外来語はだんだん日本語の重要な構成となり、日本人の文化視野を広げ、日本に新しい観念、知識、物事をもたらすだけでなく、更に、日本人の考え方にまでも影響を与えたが、総じて言えば三つのポイントから外来語の主な役割がまとめられる。

先ずは、日本社会に新しい物事、考え方を示し、定着させるという役割である。この類の外来語には、IT関連技術、医療、自然科学、社会科学、服飾、スポーツ、グルメ、化粧品などの専門分野の用語が多い。例えば、「インフォームドコンセント」という外来語は、医師が患者に病状を説明し、医療内容を話し合いで決めていくことを表し、日本にはなかった概念として、英語の「informed consent」の発音をそのままカタカナ表記したものである。また、セカンド・オピニオン(second opinion)、ホームページ(home page)、ウェブサイト(Web site)、インターネット(internet)、ハイウェイ(highway)、リサイクル(recycle)、インスタグラム(Instagram)などのような新しい物事、新しい考え方を表す外来語が挙げられる。

次は、既存の概念を外来語の使用を通じて新しいイメージをもたせる効用である。外来語に対する日本人の考え方は、舶来のものが「いいもの」であるように、外来語も「いい言葉」だと受け止めている。その「いい言葉」で表される「物事」も「いい物事」であると思わせる<sup>2)</sup>。デパートの衣料品、化粧品のコーナー、またテレビのコマーシャルには時々日本人でさえ理解できない外来語で満ち溢れている。例えば、室内装飾をインテリア(interior)に言い換えると、物の品格がぐんと上がったように感じる。レストランのメニューを見た際に、地味な「牛肉」「果物」「苺」より、「ビーフ」「フルーツ」「ストロベリー」と書かれている洋風な言い方の方がよりそのムードに合った雰囲気醸し出す。評論評価をコメント(comment)、設計をデザイン(design)、職業婦人をキャリアウーマン(career woman)、専門家をエキスパート(expert)、練習や運動をエクササイズ(exercise)、海鮮料理をシーフード(sea food)というなど、言葉一つでゴージャスでおしゃれな雰囲気、或はより専門的で品質の高いイメージを作り出す。

三つ目は、婉曲語として日本語の伝統的語彙の語感を和らげる役目である。例えば、「長所短所」という既存の言葉があるのに、「メリット・デメリット」(merit・demerit)の方がより日本人に好まれている。なぜならば「長所短所」、特に「短所」と言うのは、少々刺激的であるため「デメリット」という外来語によって当たりを柔らかくする<sup>3)</sup>。また、「借金」と「ローン」のイメージについては、どちらが響きのよい表現であるかは一目瞭然であろう。こうして日本人は老人をシニア

(senior)、便所をトイレ (toilet)、同性愛をレズ (lesbian)・ホモ (homo)、圧迫をストレス (stress)、衝撃をインパクト (impact)、劣等感をコンプレックス (complex) というなど、直接的で露骨な伝え方はせずに、当たり障りのない表現として外来語の方を使う傾向が見られる。

### 3. 中国人日本語学習者の外来語意識についての実態調査

#### 3.1 陣内正敬の調査概要とまとめ

陣内正敬(2008)は日本語教育現場に於いてカタカナ教育の実態を把握するために、2005年に日本の日本語教育機関 198 機関の日本語学習者を対象に調査を行った<sup>4)</sup>。調査対象を母語別にみると、中国語、韓国語、朝鮮語、英語などがあるが、本稿は中国人学習者のカタカナ語意識に関する調査内容だけを抽出して、下記のような内容に絞り込んだ。まず、「日常生活の中で、カタカナ語がわからなくて困ったことはどれくらいありますか。」に対し、「よくある」「ときどきある」と答える中国語話者はほぼ 90%を占める。その要因として、語彙と文字の両面に於いて、カタカナ語は中国語と相当の距離があり、それだけ馴染みが無いからだと推測することができる。「どんなところが難しいですか」に対する回答の中で、いろいろな点で難しいと感じているが、その過半数が挙げた項目が4つある(表1)。「意味推測不能」(64.1%)が最も多いのは、母語に対応する語が極めて少ないことから来る。また、そこで辞書を引いても載っていないことも多く、「辞書不掲載」を選んだの学習者も多い(55.6%)。また、英語を知っている場合でも、「発音の違い」(60.5%)には多くの学習者が困惑しているし、それを表記するとなるとこれも難しい。特に、促音、長音などは聞いただけではその知覚が難しく、結局正しい表記を見て、視覚的に覚えてしまわなければならない言葉である。

表1 カタカナ語の難しい点

	発音の違い	意味の違い	表記の困難さ	既存の語	破格カタカナ表記	意味推測不能	辞書不掲載	その他	無回答
中国語話者 (%)	60.5	28.7	52.5	45.7	34.1	64.1	55.6	0.4	1.3

※表1は「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育」(陣内正敬)の調査内容に基づいて作成した。

「日本語授業の中で、カタカナ語の勉強についてどのような希望を持っていますか。」に対し、中国語話者は「もっときちんと教えてほしい」(71.8%を占める)という強い要望を示した。これは上で見たカタカナ文字や語の習得、並びにその運用の問題点と直結した結果であり、カタカナ語に困難を抱えている中国語話者からの切実な要望と受け取るべきであろう。「日本語の中でカタカナ語が使われているのをどう思いますか。」というカタカナ語の存在に対し、中国語話者には「よくない」とする割合(43.3%)が高く、その「よくない」理由として、「わかりにくさ」を筆頭に、「カタカナ語不要」「原語とのズレ」「英語学習の障害」「過剰な量」「日本語の消失」などあらゆる選択肢に30%後半から40%弱の回答があるという分布になっている。

以上は陣内正敬の研究から抽出した中国人学習者の外来語意識に関する調査結果で、本稿は、陣内正敬(2008)の研究方法与研究成果に基づき、2018年10月に日本語を専攻する中国人大学生(南通大学外国語学部日本語学科専攻生)ら121名を対象に日本語外来語認知度について調査を行った。今回の調査結果の分析を行うことによって、中国に於ける日本語教育現場の実態を把握し、日本語教育の改善に於いてどんな対策が考えられるかを検討する。

### 3.2 南通大学日本語学習者の外来語意識についての調査

調査時期: 2018年10月

有効回答数: 南通大学(111人)、鞍山師範学院(1人)、吉林大学(1人)、福州大学(1人)、青島工学院(1人)、烟台大学(1人)、重慶師範大学(1人)、青海師範大学(1人)、広東海洋大学(1人)、中原工学院(1人)、湖南師範大学(1人) 合計 121人

調査方法: 問巻網<sup>5)</sup>というアンケートアプリを利用した無記名アンケート。選択肢にあたる回答をあらかじめ用意し、選ばれた回答を収集して数値化して定量分析を行った。対象者は大学の教育課程で日本語を学ぶ19~24歳の学生(学部1~4年生及び日本語修士課程の大学院生)121人

調査概要: 本調査は所属学校、性別、年齢、日本語学習期間、日本語検定資格、英語検定資格を尋ねたフェースシート部分(Q1~Q5、Q9)と外来語意識に関する質問(Q6~Q8、Q10~Q14)という二つの部分に分けられている。調査対象は主に南通大学在籍の学部生と大学院生で、全対象者の91.7%を占めている。そして、調査対象となる全ての学習者は日本留学経験の無い日本語学習者である。性別は女性が86.8%と多い。調査対象年齢は19歳から24歳までで、日本語学習期間は1年未満0.8%、1年以上2年未満9.1%、2年以上3年未満65.3%、3年以上4年未満23.1%、4年以上5年未満0.8%、5年以上0.8%で、3年生の割合が圧倒的に多い。日本語能力試験合格率は、N1が19%、N2が29.8%で、まだ資格を取得していない学生が51.2%と半数以上を占めている。中国の日本語科の大学生は一般に、3年生になってから当年度の12月に行われるN2、N1の受験に取り組み始めるという事情があるからである。英語の能力については、それぞれ全国大学英语4級(CET<sup>3</sup>) (CET4)が80.2%、全国大学6級(CET6)が28.9%で、中国の英語教育の普及率が高く、しかも英語の能力もかなり高い水準に達していることが調査によって明らかになった。調査対象の外来語意識に関する質問は合計8問で、集計結果は表2にまとめた。

まず、「外来語がわからなくて困ったことはどれくらいありますか。」(Q6)に対し、「よくある」「ときどきある」と答えた中国人学生は87.6%を占め、「外来語を覚えたり使ったりすることは難しいですか。」(Q7)に対し、59.5%の学生が「とても難しい」「難しい」と思っている。この調査結果からは、カタカナ表記による外来語に関して、多くの学習者が戸惑いを感じ、外来語の勉強が日本語学習の大きな壁となっていることが伺える。

「どんなところが難しいですか。」(複数回答)(Q8)という質問への回答結果によると、その過半数が挙げた項目が3つあり、「知らない外来語は聞いても見ても意味が全く想像できない」が67.8%、「外来語を書こうと思っても、正しく書けない」が53.7%、「外来語は元の言葉(英語など)と発音が違う」が51.2%を占め、中国人学習者が外来語を学習する中で抱える具体的な悩みを物語っている。この要因としては、中国の在来の日本語教育は平仮名言葉の訓練に力を入れている一方、片仮名言葉の練習が不足している状況が続くため、学生の外来語の運用力が向上しにくいことが考えられる。また、中国人学習者は小学から英語教育を受けたが、日本語の外来語が英語の発音とずいぶん異なるため、外来語の発音から語源に遡ることができないことも大きな悩みとなっているようである。

一方、「あなたの英語の知識は外来語の勉強に役に立つと思いますか。」(Q10)という質問に対しては、「役に立つ」「少し役に立つ」と96.7%の学生が英語力と外来語学習の関連性に肯定的な意見だった。外来語と英語では発音と意味が多少ずれているという認識を持っているが、勉強すればするほど学習者の英語力が外来語学習で活用されているとポジティブに捉えているようである。

<sup>3</sup>CET (College English Test) : 非英語専攻の学部生および一部短大生は大学在学中に受験するように要求される。

表2 外来語意識に関するアンケート調査

Q6	外来語がわからなくて困ったことはどれくらいありますか。			
	A. よくある 66人 (54.5%)	B. ある 40人 (33.1%)	C. たまにある 15人 (12.4%)	D. ほとんどない 0人 (0%)
Q7	外来語を覚えたり使ったりすることは難しいですか。			
	A. とても難しい 20人 (16.5%)	B. 難しい 52人 (43%)	C. すこし難しい 43人 (35.5%)	D. 難しくない 6人 (5%)
Q8	どんなところが難しいですか。(複数回答)			
	A. 外来語は元の言葉(英語など)と発音が違うところ		62人 (51.2%)	
	B. 外来語は元の言葉(英語など)と意味が違うところ		16人 (13.2%)	
	C. 外来語を書こうと思っても、正しく書けないところ		65人 (53.7%)	
	D. 知らない外来語は聞いても見ても意味が全く想像できないところ		82人 (67.8%)	
	E. 同じ意味を持つ外来語と在来語を使い分けることができないところ		48人 (39.7%)	
	F. 辞書に載っていない外来語が多くて、調べられないところ		42人 (34.7%)	
Q10	あなたの英語の知識は外来語の勉強に役に立つと思いますか。			
	A. 役に立つ 44人 (36.4%)	B. 少し役に立つ 73人 (60.3%)	C. 役に立たない 4人 (3.3%)	
Q11	日本語の先生はよく現在流行っている外来語を紹介するか。			
	A. よくある 12人 (9.9%)	B. ときどきある 73人 (60.3%)	C. ほとんどない 36人 (29.8%)	
Q12	日本語のカリキュラムで外来語に関する講義が設定されているか。			
	A. ある 14人 (11.6%)		B. ない 107人 (88.4%)	
Q13	日本語の外来語が増加していることを知っていますか。			
	A. 知っている 90人 (74.4%)		B. 知らない 31人 (25.6%)	
Q14	日本語の外来語がどんどん増えていくことを望んでいますか。			
	A. 望んでいる 31人 (25.6%)		B. 望んでいない 90人 (74.4%)	

次に、日本語教師は普段の授業で外来語教育を重要視しているかを調べるため、「日本語先生はよく現在流行っている外来語を紹介するか。」(Q11)という質問を設定したが、その質問への回答結果は、「よくある」、「ときどきある」と答えた回答者がそれぞれ9.9%、60.3%を占め、日本語授業に於いて外来語教育を取り入れることの必要性を教師個人が感じていることを示唆している。しかし、どのような形で学生に教えているかについては、今回の調査では触れていないため、詳しい状況は明らかになっていない。「日本語のカリキュラムで外来語に関する講義が設定されているか。」(Q12)という質問に対し、88.4%の回答者が「ない」と答えた。これは恐らく日本語教育現場全体の共通点であろうと推測される。中国の教育現場でシステムティックに外来語教育を導入していない事情を再び裏付ける結果となった。外来語教育の強化は日本語教育現場の大きな課題であり、まだ抜本的な改革が進められていないのが現状である。

最後に、「日本語の外来語が増加していることを知っていますか。」(Q13)という質問では、74.4%の回答者が「知っている」と答え、「日本語の外来語がどんどん増えていくことを望んでいますか。」

(Q14)に対し、74.4%の回答者は「望んでいない」と答えた。外来語の数が増えつつあるという事実を知りつつ、その現実に抵抗を感じている学習者の焦る心理を如実に反映している。

#### 4. 外来語学習に於ける困難点

上記の調査結果に基づき、また、筆者の日本語教育経験から、外来語学習と教育に於ける大きな困難点は次の5つのポイントに集約できる。

4.1 外来語の発音が、由来した言葉の原音とはかなり違い、外来語の発音から語源に遡ることができない。中国人学習者は大学に入るまでに、すでに9年間（小学校3年、中学校3年、高校3年）の英語教育を受けており、かなりの英語力が身につけている。ところが、日本語の外来語（英語から由来したもの）が英語の発音とずいぶん違うため、英語力が却って意味理解を阻害している。そもそも日本語の外来語は英語の発音を忠実にカタカナにしたものではなく、日本語の発音に沿った表記が多く、また省略されたカタカナ表記が目立つことが特徴である。例えば、日本語が開音節を原則とするのに対して、英語は閉音節が原則である。一つの母音しかない「truck」を日本語化の際、子音の「tr」「ck」を開音節化する。つまり母音を子音の後に付け加えるか、子音と子音との間に挿入する。そのため「トラック」というふうにならざるに三つの母音が入る言葉になる。また、片仮名では十分に原語の発音を表記し切れないため、同音語が出来てしまうケースも多い。ボールを転がして十本のピンを倒す競技の「ボーリング」の原語は「bowling」であるが、地下に穴をあける試掘の「ボーリング」は「boring」である。LとRの区別は仮名では出来ないため、結局同音語になってしまう。「bolt(螺釘)」も「volt(電位差及び起電力の実用単位)」も同じく「ボルト」である。BとVとの区別をしないからである<sup>9)</sup>。また、「ホール」は、「whole(全体)」なのか「hall(会堂)」なのか「hole(穴)」なのか不明であり、初心者の学習者にとって更に外来語学習の困難度が上がる。

4.2 外来語が日本語化するとき、原語との間に意味のズレが生ずることが多い。外来語は、普通は限定された意味にしか使われないので、その多くが原語より狭い意味を表したり、原語にない意味を表したり、一つの語でも意味の拡大と縮小の両方がみられる語もあり、意味の推測が難しい。中国人学習者にとっては、発音練習を毎日繰り返してやっと発音の難関を克服しても、今度は単語の意味を暗記する時、また混乱してしまう。自分の英語力が役立つどころか、むしろ日本語を学習する時の妨げとなるばかりか、カオスをもたらす。例えば、最近「テンションが上がりました」ということを度々耳にするが、ネット辞書 weblio で調べると、「緊張感や気合い、やってみるという意気込みが増す様子」を意味しているが、「不安、緊張」を表す英語の「tension」とは若干ニュアンスが異なる。また、「front」は「正面」という意味しかないが、「フロント」は「正面」のほかにも「ホテルなどの正面玄関にある受付・帳場」を表すことができる。日本独特の清涼飲料である「サイダー」は、英語では「リンゴ酒」となる。「アバウト」は「いい加減な、おおざっぱな」を表す形容動詞であり、細かなことを気にせず、割といい加減な人だと、「アバウトな性格だな」と言うし、地図などで細かな情報まで書かれていなければ「アバウトな地図だ」とも言う。一方、英語の「about」は形容詞として使う場合は「近い、周りの」などの意味を表す。日本人にとって「アウトレット」と言えば「モールの放出品」を思い浮かべるが、原語では「コンセントの差込口」であるなど、外来語と原語間の意味のズレは枚挙にいとまがない。学習者は日本語における外来語が外国語に加工を加えて日本語化した日本語であることを理解しないと、外来語は身に付かないだろう。

4.3 和製外来語や混種語の出現が一層、外来語学習の難度を高めている。日本人が外来語の頭や尻尾を切ったり、好きなように組み合わせたりして、新しい造語を次から次に作り出している。ビル（ビルディング）、プロ（プロフェッショナル）、ダイヤ（ダイヤモンド）、テレビ（テレビジョン）、アニメ（アニメーション）、インフレ（インフレーション）、デパート（デパートメント）、

プレゼン (プレゼンテーション) などの様に長めの単語の後半部分を省略するケースもあれば、「セクシュアルハラスメント」→「セクハラ」、「アメリカンフットボール」→「アメフト」、「マスコミュニケーション」→「マスコミ」のように複合語をそれぞれ前半の2拍ずつ取った4拍の語も非常に多い。また、ガソリンスタンド、バックミラー、イメージアップ、オーダーメイド、リフォーム、クールビズなどの様に元々英語にはない単語や、インスタ映え、ロン毛、ドル高、リゾート地、サラダ油、プロ野球、ヒット曲、帰省ラッシュ、省エネ、軽トラ、急ピッチ、生ビール、ロコミなどのように異なる言語に由来する二つ以上の要素を組み合わせた混種語もどんどん出てくる。こうして音節数の長い外来語が一部省略されたり、複数の言語が組み合わせられたりして、もっと抽象的な外来語になってしまっているものもある。これは日本語学習初心者にとってはまるで「怪物」のように見えて、いくら暗記しようとしてもなかなか覚えられないという苦い経験を持つ学習者も多いだろう。

4.4 日本語では名詞、動詞などの品詞が元の言語の品詞と異なることがあり、これもまた学習難度を高める一つの要因になっている。アナウンスを名詞として「放送」の意味を表すが、英語で「announce」は動詞であり、名詞形は「announcement」である。サインの場合も同様で、英語では「署名する」を表す動詞であり、英語の名詞は「signature」であるが、日本語では名詞としての解釈を受けている<sup>7)</sup>。「リラックスして試合に臨む」という例文を見て、「する」といっしょに動詞として使うものと一生懸命暗記したが、「リラックスな状態」を見た時の驚きもその分大きいだろう。また、大変な仕事を表すのに「ハードな仕事」、「ハード的な仕事」、「ハードの仕事」のどれが正しい言い方か分からないことや外来語で表現しようとする時に、その外来語の品詞になかなか自信が持てないのも学習者の悩みの種である。

4.5 同じ物事を指す言葉は外来語を含むいくつかあるが、どのように使い分けるのか、外国人には判断が難しい。例えば、スーパーで同じ魚が「サーモン」「鮭」という二つの名前で売られているのに対して感じる日本語学習者の素朴な疑問、つまり、いつ「サーモン」と呼び、いつ「鮭」を使うのか、ということに対して明確な答えを求めている。なぜなら外来語と非外来語の使い分けは辞書には載っていない問題だからである。同じ例として、ペーパー/紙、ティー/お茶、ヌードル/麺、チケット/券/切符、キャップ/帽子、ホテル/旅館/宿屋、ビル/建物、ギャップ/溝、カルチャー/文化、枕カバー/ピローケース、グリーン/緑などが挙げられる。学習者は同じ物事を表現する和語、漢語と外来語をどのように使い分けるのかを常に迷い、頭を悩ませている。結局、外来語が入り混じる類義語間の微妙なニュアンスを見極める能力を問われる。

## 5. 日本語教育に於ける教育側の対策と反省

教育現場では外来語の難しさで学習意欲を無くしている者がいるが、全体としては高い学習意欲を示している。それだけに、教師側は学生に「外来語をもっときちんと学習しなさい」とただ説教するだけではなく、教師自身が積極的に新しい外来語とその由来や使い方を学び、授業に取り入れることによって、生きた日本語を教えることになる。新しい外来語を取り入れた教育を行うための具体的な方法について下記にまとめた。

5.1 システマティックな外来語の教育を導入し、外来語の表記、音声音韻、品詞の転化、和製外来語、混種語などの知識を講義という形を通じて学生に教える。しかも、タイミングが非常に重要である。王伸子(2011)は学習者の心理的抵抗を少なくするために、カタカナ表記による外来語教育の導入が早ければ早いほど効果的であると強調した<sup>8)</sup>。中国語を母語とする学習者にとっては、漢字表記による日本語語彙は、母語である中国語の表記と共通しているものが多いことから、

その習得は速い。しかし、カタカナ表記による外来語に関しては、多くの学習者が戸惑いを感じるようで、外来語の勉強がなかなか順調に進まない。それは外来語自体の特徴に深く関係すると同時に、日本語教育の在り方に問題があるのではないかと考える。従来の日本語教育は平仮名言葉の訓練に力を入れている一方、片仮名言葉の練習が比較的不足している状況が続いているからである。日本語教育者側はこれまでの外来語教育の方針を改めないと、現代日本語の急テンポな変化に益々追いつけなくなるだろう。日本語教育に於いて外来語はまだ体系的に教えられておらず、効果的な教材作成もまだ開発途上にあるが、近年、発音や表記、意味推測などを訓練するための外来語教材なども開発されつつある。また、教育現場の日本語教師は学習者の悩みとニーズをよく把握し、正しい使い方を繰り返して練習させ、定期的にテストをするのが重要なポイントである。外来語と原語の発音や意味の違い、品詞の転化、外来語と既存語の使い分けなどの難点について講義した後、必ずポイントチェックをして印象付けるよう工夫することが必要である。日本語教育に於いては、教師自身が実情を知ることが必要であるが、同時に、学習者に対しても外来語の位置付けや実態を伝えることが、学習上の不安や運用上の過剰使用、過少使用を回避することにつながるであろう。

5.2 時代による言葉の変化を教科書に取り入れることである。日本語教科書の内容の更新やカリキュラム設定などは常に、外来語を含む現代日本語の変化に伴った対策を取るべきである。いかに日本語学習者のニーズに応えられる教科書やカリキュラムの設定をするかを常に考えねばならない。現在、中国で出版されている日本語関係の書籍は主に文法語彙、歴史と伝統文化、文学作品などの教科書、あるいは、日本語能力試験対策の参考書や問題集などであり、日本人の身近な生活や考え方、流行を反映したものは非常に少ない。そのため、出版社と教育者が協力し、日本の最先端の生活スタイルを反映する文章を採用し、時代性と言葉の変化を反映する教科書を共同開発する必要がある。また、教育機関はカリキュラムを構成する際に、十分にグローバル化した日本人の「衣食住」を反映する内容を導入するよう検討を重ねるべきである。こうして意図的に学習者に外来語の重要性を認識させ、外来語に対する敏感度を高めるよう工夫しなければならない。

5.3 グローバル時代の情報収集の手段をうまく活用し、すばやく入手し、適切に伝えることが大事である。5.2 で既に触れたが、現在、中国の大学で使われている教科書は日本語文法、文学作品、伝統文化、歴史などの内容に偏り、日本の時代性を反映する内容は極めて限られている。一方、教科書の作成、出版までの周期が長いなどの事情で教科書の素早い更新は難しい。また、低学年の日本語教育は発音、単語、文法など語学そのものの授業に力が入れられ、現代日本社会の事情を紹介する講義が非常に少ない。もし教師は手元の既存のテキストだけを使って授業をすると、学生の知識構造も狭い分野に留まりがちである。インターネットやスマートフォンの普及を最大限に利用して、外来語教育を強化するのが一番手っ取り早い手段と言える。日本語の新聞紙、雑誌、小説などの読み物を購入して、学生の課外読書や読解教材として活用し、最新の外来語に接触するチャンスを与える。一方、教育者だけでなく、学習者自身も情報収集を進める必要がある。日本の公的機関の公式サイトなどに掲載されている情報を収集し、読解のコンテンツとして利用するよう工夫する必要がある。

5.4 最新外来語を学習者に伝えるために、日本語教師の日本語レベルアップにも力を入れる必要がある。于衛紅(2012年)は教育者が最新外来語を学習者に伝えるために、定期的に外国での知識の充電や、各教育部門への専門研修などで自分の言語レベルを向上させるべきと強調した。確かに、学習者の「もっときちんと教えてほしい」という要望にどう向き合うのかは、色々と指導上

の工夫はされても、結局は教師側の意識が根本的に変わらなければ部分的な試みに終わってしまうであろう。そして気付いた時には時代遅れの文字教育、語彙教育を行なっていたとならないよう、自分自身のモチベーションを高め、対策を講ずるべきである。日本語教育機関は、定期的に日本語教師を日本の大学に派遣して新しい言語知識を勉強させるための教員育成制度を確立する必要がある。また、日本社会では年配者と比べて、若者の方が外来語をよく使っているということから、日本語教育機関や中国の大学は日本人教師を招聘する際は、常に教師の年齢層バランスを考慮して、伝統文化と若者の流行文化を共に学習できるような配慮が必要である。

5.5 雑多な外来語から必要なものを選別する能力を育成しなければならない<sup>9)</sup>。日本文化の特徴の一つは欧米人や欧米文化を崇拝し、よく真似をすることである。外来語はその外国文化を反映するパイプ役としての役割を担っている。斬新な生活スタイルや文化を取り入れるのに伴い、結局、大量の外来語が一斉に日本人の生活に流れ込み、外来語の氾濫を招いてしまう。そのうちに、一部の外来語は多くの人に認められることなく、いつの間にか死語になり、消えてしまう。一部は生命力が強く、日本人の生活にしっかりと定着している。従って、学習者であれ教育者であれ、何の選択もなしに全ての外来語を学習対象として受け入れるのは非現実的である。必要なものを選んで勉強させるよう工夫しなければならない。例えば、日本国民を対象にしている官公庁、新聞・放送等でよく使われる文章や、一般の人々の生活に浸透した外来語が使われている文章を講義の素材として活用するのも一案である。

## 6. 日本語学習者の対策

6.1 テキストに使われている外来語は、実際に応用されている外来語のほんの一部でしかない。実際に応用する際に困らないよう、別のルートからも情報を収集する必要がある。今日、中国ではスマホ向けの APP store や WeChat 公式アカウントなどが数多く開発され、そこに掲載された日本社会に関する情報が勉強の素材として利用できる。例えば、「ヒマラヤ FM」という APP にアップされた日本のニュース、日本語会話、日本語文章の朗読など様々なコンテンツを利用して聴解の練習が出来る。また、「人民網日文版」、「日語学習」、「在日留学生活」、「日本語能力試験練習」などの WeChat 公式アカウントでは、日本の最先端の情報を紹介する日本語の文章や記事が掲載され、中国人日本語学習者に愛用されている。まさにスマートフォン一つでどこでもいつでも日本語を勉強することができる時代になった。要するに、勉強の意欲さえあれば、いくらでも日本また日本語に関する情報を入手できる。

6.2 言葉は使わないとすぐに忘れてしまうので、学習者自身の努力で言語を使うチャンスを積極的に作る。日本語能力の判断基準は学習者の読み取る能力、文章力のみならず、聞き取る、口で話す能力、コミュニケーション力も重要な構成部分である。在日留学生は日本語が使える環境に恵まれ、日本語の上達がより早い。中国で日本語を勉強している学習者は、先生から学んだ知識を生活の中で活用するチャンスが殆どない。各試験で高い成績を取っている学生が、話す練習をすると、緊張しすぎて言葉に詰まってしまい、自分の考えをうまく表現できないケースが少なくない。こうしたことから、その環境上のギャップを補うために、出来る限り身近な情報収集ルートを活用しなければならない。外来語の学習は授業中に限らず、放課後も積極的に日本語を使う環境を作ろう。日本人教師、日本人留学生と共に日本語サロン、日本文化祭など様々な活動に参加し、日本人と気楽に会話することで、自分の言語応用力を楽しみながら向上させることが出来る。特に低学年の学習者は自分の日本語能力に自信がないため、日本人と話すことを恥ずかしく思いがちであるが、勇気を出して日本語を話すことが大事なポイントである。また、好きな CD をスマートフォンにダウンロードして聞きながら、知らない単語を調べるとか、好きな映画やテ

レビ番組を何度も見て、新しい単語やフレーズを覚えることも可能である。ソーシャルメディア (SNS) を利用して日本人の友達を作ったり、相手のコメントを読んだりコメントしたりしながら単語を覚えるなど、可能な限り幅広い手段を利用して日本語能力をレベルアップすることが出来る。インターネットの発達が発達言語学習にも恩恵をもたらしてくれている。それを活用しない手は無い。

おわりに

本研究はアンケート調査によって、中国人学習者の外来語に対する意識について、発音、意味、品詞などの面から外来語学習の難しさを分析した。その結果を踏まえて教育者と学習者の立場から教科書、インターネット活用、教員の知識向上、学習者の学習意欲と学習手段などの面から外来語学習の対応策を検討した。今後も増え続けるであろう外来語によって、学習難度は更に高まることが予想される。それだけに日本語レベルを高い水準に引き上げるためには、外来語習得の重要性を喚起したい。また、今後更にアンケート対象人数を増やすことにより、精度の高い分析を行うと共に、生活に即した外来語を取り入れた教材開発とそれを活かした教育法の開発を今後の課題として取り組みたい。

参考文献

- 1) 国立国語研究所編『外来語の形成とその教育』1990年、p. 1。
- 2) 柴田武「外来語は日本語を乱すか」『ことば読本 外来語』河出書房新社 1993年、p. 20。
- 3) 前掲 p. 21
- 4) 陣内正敬「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育」『言語と文化』関西学院大学 (11) pp. 47-60
- 5) 「問巻網」は蘇州衆言科技株式有限会社が開発したアンケートアプリである。本研究の調査結果は下記のサイトへのアクセスでチェックすることができる。  
[https://www.wenjuan.com/report/weixin/5bb475d8a320fca6b8f724d9/?pid=5bb475d8a320fca6b8f724d9&vcode=c294663d2a4d24f8a5b1db90e2c185a4&client=wenjuan\\_mweb](https://www.wenjuan.com/report/weixin/5bb475d8a320fca6b8f724d9/?pid=5bb475d8a320fca6b8f724d9&vcode=c294663d2a4d24f8a5b1db90e2c185a4&client=wenjuan_mweb)
- 6) 岩淵悦太郎「外来語」『ことば読本 外来語』河出書房新社 1993年、p. 13。
- 7) 石綿敏雄「和製英語と国際通用語」『外来語 (ことば読本)』河出書房新社 1993年、pp. 98-99。
- 8) 王伸子「中国語母語話者の日本語外来語彙習得に関する諸問題」『専修人文論集』専修大学学会 2011年3月 (88) pp. 1-15。
- 9) 于衛紅・包賀喜格「日本語外来語の勉強法についての考え—中国人日本語学習者を中心に—」九州共立大学研究紀要 2012年3月、第2巻第2号 pp. 79-82。